

第2部 調査の結果

第1章 地域福祉の担い手グループインタビュー

1 活動状況

団体名	活動内容
市民活動コーディネーター卵の会	市民活動支援
NPO法人アビリティクラブたすけあい 府中 たすけあいワーカーズぼ♥ぼ	保健・医療・福祉 まちづくり 男女共同参画 子どもの健全育成 情報化社会の発展
NPO法人つどい(はんの木)	保健・医療・福祉
一般社団法人よって屋	働きにくさをもったメンバーとともに片づけ、リサイクル事業の実施
NPO法人わの会	保健・医療・福祉
NPO法人じーばーとあそぼ	社会教育 学術・文化・芸術・スポーツ 子どもの健全育成 経済活性化 職能開発・雇用拡充 NPO支援
認知症カフェ「きずな」	認知症予防や支援
NPO法人認知症予防ネット	認知症予防や支援
企業組合ワーカーズ・コレクティブ椀もあ	弁当などの食の提供

2 活動をする上での課題

(1) 活動上の問題点

- ・活動上の問題点として、全般的な人材不足、活動者の高齢化、若い世代の活動者がいないこと、事業を行う非営利団体においては活動費が少なく、十分な人件費の確保が難しいことなどが挙げられた。
- ・ニーズへの対応の問題については、福祉ニーズは増えているものの、供給側で需要を顕在化して利用者を確保することや、事業を継続するための経費が不足していることが挙げられた。また、介護保険制度改正による支援対象や介護報酬の変更によって、サービスを利用しにくくなることや、利用者の減少につながる可能性があるとの指摘があった。
- ・弁当宅配事業者からは、一食当たりのコストが高く、健康管理のための病人食メニューへの対応ができないので、真に必要な方への支援ができていない可能性が挙げられた。
- ・行政からの補助金や助成金は人件費に使えない場合が多く、経験が地域に根付かないという問題があることから、事業の実施にあたって、様々な資金援助や資源の活用に対する支援を希望する意見が挙げられた。

(2) 支援等を行う上で難しい事例

- ・活動場所が建物の5階にあり、高齢者で階段を登れない人がいる。
- ・遠方に商品を届ける場合など、交通費がかかる。
- ・介護保険制度の改正でサービス利用対象者の範囲が変わる可能性がある。
- ・介護保険制度では、短時間の身体介助などが難しい仕組みになっている。
- ・障害者が介護保険の対象年齢になると、適用される制度が変わるのでそれまでのサービスを継続できなくなる可能性がある。
- ・片づけを依頼してくる高齢者等は、他の支援も必要な場合が多い。
- ・80歳代の親が施設に入った後に残る50歳代の自立できない子に対する支援。
- ・親子ともに障害がある場合の支援。
- ・難病や重病者に対する在宅での24時間体制の支援（ヘルパー等の介護人材不足）。
- ・毎日配食サービスが必要な人の把握と支援。

3 活動をとおして気になっていること

(1) 市の地域課題として考えていること

- ・地域での高齢化等の違いがみられる。
- ・団地の上層階に居住する高齢者がごみを出せないなど生活支援が必要な方が増えている。
- ・困っている障害当事者が声を上げにくい状況がある。
- ・耳鼻科や皮膚科の往診がなく、医療をしっかり受けることに困る。

(2) 地域全体で取り組む必要があると感じること

- ・障害があっても地域で暮らせるということのアピールが必要である。
- ・特別支援学校や病院が立地しており、近くに住む障害者も多いことから、地域全体での支援が必要である。
- ・子育てが困難な家庭が増えており、支え合いが必要である。
- ・マンションが建つと急に子どもが増えるため、地域の中でどう見守っていくかが課題である。
- ・さまざまな支援策に関する広報の周知の在り方など、情報提供の方法をさらに工夫していく必要があること。

4 市との協働について

(1) 市と協働で行っていること、協働をする上での課題

- ・放課後子ども教室事業は、配慮が必要な子どもも多いので、小学校の先生と連携して実施している。

- ・市の協働推進課で行っている事業は先駆的であるが、今後は単独の部署だけでなく、部署を横断していくような機能が必要である。
- ・市民提案型の協働事業であっても、市は、市民に「おまかせ」するのではなく、一緒に推進してほしい。
- ・市との協働事業を実施しており、それらを広げるため事業者側で、対象者への学習会、支援者のスキルアップの講習会等をやりたい。
- ・協働事業を推進するためには、福祉制度、財務、協働についての知識やスキルがもっと必要である。それらを使いこなす力をつける必要がある。

(2) 今後、市と協働で行いたいこと

- ・身近な場所での福祉に関する情報提供や、真に支援が必要な人が支援者につながる仕組み、支援者同士につながるができる仕組みづくりをしていきたい。
- ・認知症高齢者の支援や、産前産後サポート、生活支援などの事業を行いたい。
- ・行政のデータを市民と共有し、それらを市民が使いこなす力をつけることで行政と市民が対等に地域課題を解決するような仕組みをつくり、参加していきたい。
- ・行政提案型と市民提案型の両方の協働事業を進めてほしい。
- ・障害者が働くことをテーマにした協働事業を行いたい。
- ・市のイニシアティブで、困窮者をフォローできる協働の仕組みをつくってほしい。

第2章 相談支援機関グループインタビュー

1 業務内容

対象	相談機関	活動内容
生活困窮者	生活援護課	生活困窮者自立支援法による相談支援、生活保護についての相談及び申請に対応
高齢者	高齢者支援課（福祉相談） 地域包括支援センター	地域包括支援センターは、市内に11か所 地域で暮らす高齢者の介護・福祉・健康・医療など、様々な面から総合的に支援
障害者	地域生活支援センター	市内に4か所 障害のある人や家族を対象に生活全般についての相談に対応 センターによっては、就労支援、ホームヘルプサービス、デイサービス及びショートステイ等の利用支援を実施
子ども・子育て	子ども家庭支援センター	市内に2か所 保護者からの子育てに関する相談、子ども自身からの相談及び児童虐待に関することに対応
全般	府中市社会福祉協議会 （地域福祉コーディネーター）	個別支援及び地域支援を担い、文化センターでの困りごと相談会の実施、わがまち支えあい協議会の運営支援等を実施
全般	民生委員・児童委員	地域福祉の身近な相談相手として、生活上のさまざまな援助を必要とする人からの相談に幅広く応じ、必要な福祉サービスが利用できるよう福祉についての情報を提供し、また、関係機関と連携をとり問題解決に向けた活動を実施

2 相談の現状

- ・収入がない親と同居していても、働いている子どもが収入を家に入れられない。
- ・親子ともに障害を持っている。
- ・祖母が認知症で、親に精神疾患があり、3人の子がひきこもり、知的障害、不登校の状況にある。
- ・8050問題（80歳代の高齢者の親とひきこもり状態の50歳代の単身・無職の子が同居している状態）。
- ・親に対して虐待をする子に障害がある。
- ・ごみ屋敷や認知機能の低下により近隣とのトラブルを抱えている。
- ・現状では相談支援機関同士の連携が必要な場合は、必要に応じて集まりケース会議を開催し、支援策を検討している。

3 相談の課題

- ・複数の相談支援機関から挙げられている8050問題については、50歳代の子が親と同居しているため、経済的に困っておらず、就労希望もなく、障害者手帳も所持していない場合、担当機関がなく、対応できないという意見が多く挙げられた。なお、世帯に高齢者がいるため、地域包括支援センターがケースを把握していることが多く、また、社会福祉協議会が長期的に見守っている場合も多い。
- ・近隣トラブルが起きた際に、近隣の方とはどこまで情報共有をするべきか判断が難しい。
- ・既存の制度にあてはまらない場合、介入がしにくい。また、つなぐ先の確認に苦慮する。

4 多分野連携を進めていく上での現状と課題

- ・どの機関がどこまで支援するのか決まっていない。
- ・どの機関がリーダーシップをとるのか決めることが難しい。
- ・関係者会議で対応方法を決めても、それぞれ自分の部署に持ち帰って見たら、やはりできないということがある。
- ・職員の異動により連携が難しくなってしまうことがある。
- ・不動産屋につなぐ必要がある場合もある。しかし、行政及び相談支援機関並びに民間業者との連携は難しい。
- ・制度の狭間の人への支援は地域の方、ボランティアの方の見守り及び協力が不可欠だが、負担が大きくなってしまう。
- ・相談支援機関につなぐと民生委員・児童委員に、その後の情報が入ってこない。
- ・民生委員・児童委員は地域とつながる機会が少なくなっており、地域の方、特に子どもと知り合う機会がない。

5 今後の連携体制

- ・各機関が連携する際は、互いの制度や役割、どこまで支援ができるのか、ケースの現状に対する認識等を共有し、理解し合うことが重要である。また、意見を交わす際には、前向きな発言が出るような雰囲気づくりが重要である。
- ・ワンストップの相談窓口を設けて機能を集約するよりも相談支援機関同士のネットワークを深めることが重要である。
- ・複合的な課題を抱えているケースを担当する部署や調整する機関があるとよい。
- ・福祉以外の部署との連携も進めていけるとよい。
- ・地域包括支援センターでは基幹型のセンターを設置することも考えられる。

6 福祉エリアの見直しについて

- ・現在、6つのエリアに分かれている福祉エリアを、文化センター圏域を基にした11のエリアに見直すこと対して、各機関から、事業によって複数のエリアが設定されているよりも統一されているほうが、住民にとっては分かりやすく、地域活動がしやすいといった意見が出された一方で、現在の福祉エリアに基づき支援を実施している包括支援センターや民生委員・児童委員等からは、今後の支援業務や活動に対する影響への配慮が必要であること、また、エリアの変更への対応など一時的な負担の増加等が課題として挙げられた。

第3章 生活支援機関インタビュー

1 事業概要及び地域の状況、地域貢献活動の内容

(1) タクシー会社

- ・市には高齢者や障害者が利用する3種類の福祉タクシー券があり、それぞれ用途や行先が異なっている。ニーズが多様化しているため、区別がない方が使いやすい。
- ・介護保険訪問介護事業者の指定を受け通院等昇降援助を実施しており、1日約10件の利用がある。

(2) 郵便局

- ・当該郵便局が立地する団地でも、店舗の閉店、団地の老朽化、高齢化が進んでいる。
- ・住棟によっては、5階建てでエレベーターのない棟がある。
- ・コープ、コンビニ等の開店により、地域がにぎわってきており、団地入口がちゅうバスのルートにあるので利便性もよくなっている。
- ・当該郵便局では住民票等の交付も行っている。
- ・地域の福祉関連団体や施設での運営等に参加し、地域活動に活発に参加している。

(3) 信用金庫

- ・法人には事業継承に向けたサポートにも力を入れている。
- ・店舗で各種のセミナーを開催している。
- ・高齢者が来店した場合は、個室で話を聞く。相続に関する相談も多い。

(4) コンビニエンスストア

- ・市内の店舗は、地域在住の経営者が多く、各店舗とも地域に密着している。
- ・本部では「地域活性化包括連携協定」を2017年1月に市と締結しており、地域の見守り活動に協力し、シニア就労支援事業も実施している。
- ・2016年に認知症サポーター養成講座を開催している。認知症と思われる方の場合は、その人にあわせた対応を丁寧に行う。

(5) 団地関係者

- ・供給開始から時間が経過し、高齢化が進んでいる。自治会が活発に活動しており、加入率は60%強となっている。
- ・UR賃貸の管理主体は自治会と密に連携を図り入居者の支援や地域活動を推進している。
- ・あんしん登録カードという仕組みがあるが、センサーによる見守りサービスも開始した。系列の会社

第2部 調査の結果

による生活支援サービスも始まっている。

- ・自治会としては、コミュニティカフェを月2回実施しており、活発に活動している。

(6) スーパー

- ・店舗と医療機関と保育園が一つの建物にまとまっている。
- ・組合員同士の助け合いの仕組み、組合員の寄付による奨学金制度を設置している。
- ・店内のカフェスペースが地域の人たちのくつろげる場となっている。

2 福祉ニーズ、支え合い活動の状況、他機関等との連携

- ・活動を通して、認知症と思われる利用者については、地域包括支援センターに連絡することがある
- ・店舗は、防犯やかけこみの場所となっている。またシニア層の働く場でもある。

3 事業活動をする上での課題と方向

(1) 事業活動をする上で直面する困難ケース、考える地域課題

- ・防災訓練によって、災害時の避難体制の在り方について気づきを得られた。
- ・地域では外国人の居住者も増えて、生活習慣の違いで問題が起きることがある。
- ・フードバンクを実施しているが、利用者は他市の方や外国人が多い。市民の利用が少ない。

(2) 今後の活動・取組の意向

- ・タクシーやバスの共同移動サービスを期待する。市へは福祉タクシーへの支援をお願いしたい。
- ・郵便局は駆け込み寺になるように取り組むことができたらと思っている。
- ・生活支援機関として、地域とともに共生を図りたいと考えている。
- ・見守り支援に関して、市民も参画する事業者連絡会を開催する必要がある。文化センターでは多くの取組があるので下地はある。市民と事業者が一体感のある取組が求められる。
- ・将来的に買い物不便になる人が増えるので、自治会等と合意しながら移動販売も検討したい。
- ・今後は福祉や防災での地域連携が大切であり、地域包括支援センターとの連携が特に重要である。
- ・災害時、避難所に物資の供給ができるので、市との取り決めができるとよい。
- ・フードバンクの恒常的な取組を広げたい。

4 市との協働・連携の考え方

(1) 地域コミュニティでの住民が主体となった連携

- ・大規模な団地での自治会、福祉施設、地域包括支援センターとの見守りに関する連携

- ・コミュニティカフェや認知症カフェに対する支援、情報提供

(2) 民間企業が福祉活動に取り組む仕組みづくり

- ・企業が売り上げの一部を福祉活動に寄付し、それを活用する仕組み
- ・生活困窮者へのフードバンクの実施

(3) 市の福祉部門と、民間事業者やNPOとの連携

- ・高齢者や障害者が利用しやすい福祉タクシー券
- ・介護保険外サービス（例、移送サービス）に関するケアマネジャーと情報を共有する仕組み
- ・市の産業・福祉部門との共催による、若者やシニア層、シングルマザーを対象とした仕事説明会
- ・車いすを載せられるバスを、市のコミュニティバスや民間のバス会社と連携し、バス停を共有して利用する共同利用事業
- ・土曜日や日曜日など市役所の閉庁時にも地域のなかに困ったときに気軽に相談できる場所がもっとあるとよい。

(4) 協定や事業体による事業実施

- ・市内の各店舗における高齢者、障害者、子どもなどの見守り体制
- ・行政と民間企業、NPOが一体となって事業体をつくり、高齢者や障害者を支援する事業（お出かけ支援、共同移動サービスなど）
- ・買い物が不便な地域での、移動販売の体制づくり
- ・災害時に店舗の物資を近くの避難所に供給する仕組み

第4章 文化センター圏域別グループディスカッション

1 ディスカッションの結果

(1) 地域の課題（困っていること、課題を抱える人・世帯）

全ての地域から挙げられた課題

- ・全ての地域から、地域の課題として次のような意見が挙げられた。

地域のつながりの希薄化	<ul style="list-style-type: none"> ・近所づきあいが希薄 ・地域交流、つながりが少ない ・地域の結びつきが弱くなっている ・新しい人と昔からいる人のつながり ・世代間のつながりの不足
地域の人がわからない、情報共有が課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報への壁がある ・住んでいる世帯の実態がわからない ・孤立している人の情報が入ってこない ・困っている人がどこにいるかわからない
地域の担い手不足	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の担い手が少ない ・担い手の高齢化 ・リーダーがいらない、リーダーの負担が大きい ・若い人、男性の参加が少ない
自治会・町会等への加入者の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会・町会加入者が少ない ・若い世帯の自治会・町会等加入が課題 ・自治会・町会等の機能の低下 ・自治会・町会等同士の連携、他団体との連携
高齢の単身者や高齢者のみの世帯の増加、見守りの必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のひとり暮らし、高齢者の夫婦のみ世帯の増加 ・見守りが課題 ・認知症の方の把握・見守りが必要
子どもの居場所や遊び場の不足、見守りの必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少ない ・遊び場が少ない、居場所が少ない、安全確認が重要 ・登下校の見守りが少ない
防災対策、災害時要援護者の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・防災対策、水害対策（ハケ下） ・災害に対する不安、災害時の避難が課題 ・防災対策、訓練が少ない ・災害時要援護者への対応
空き家の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家が増えている ・草木の手入れができていない家がある
道路の危険	<ul style="list-style-type: none"> ・道路（道幅）が狭い ・バリアフリー化が急務、車いすが通れない ・道路の不整備（狭い道路が多い等）

複数の地域から挙げられた課題

・複数の地域から、地域の課題として次のような意見が挙げられた。

	交流・居場所の不足	交通の便が悪い	買い物が不便	支援が必要な世帯がある	マナーが悪い
中央	-	-	・ 買い物が大変	・ ひとり親家庭の増加 ・ とじこもり、ひきこもりの方	・ マナーが悪い（ペット、ゴミ捨て）
白糸台	-	-	-	・ ひとり親家庭の問題	-
西府	・ 若年性認知症、精神疾患の方の居場所がない	・ 交通の便が悪い（南北を移動するための足がない、踏切が多い、坂）	-	-	-
武蔵台	-	・ 交通の便が悪い	・ 店が少ない（生活用品等）	-	・ マナーが悪い（主にペット）
新町	・ 介護の息抜きの場がない ・ 地理的課題（集まる場所が少ない）	・ 交通の便が悪い	-	・ ひきこもりの人がある	・ 外国人が多く、ゴミ捨て等のマナーで課題 ・ 公園等への不法投棄、夜間の公園での騒音
住吉	・ 地域の人と交流できる場所が少ない	-	-	-	-
是政	-	・ 交通の便が悪い、交通網の不足	-	-	・ 競艇場に来る人のマナー
紅葉丘	-	・ 交通の便が悪い、市の中心部に行くのが大変	・ お店がない、買い物が不便	-	・ マナーが悪い（ペット）
押立	-	・ 陸の孤島、交通の便が悪い	-	・ 親に依存、8050問題、ひきこもりの方	-
四谷	・ サロン等の居場所が少ない、参加者が限定的 ・ 精神疾患を抱えた人の集う場所がない	・ 交通の便が悪い	-	-	-
片町	-	-	-	・ ひとり親家庭 ・ ひきこもりの方 ・ 体が不自由な人が増えていて手伝いが必要	-

第2部 調査の結果

地域別に挙げられた課題

・地域別の課題として、次のような意見が挙げられた。

中央	<ul style="list-style-type: none">・ 地域行事に騒音のクレームがある・ 地域が広い
白糸台	<ul style="list-style-type: none">・ 活動の圏域が異なる・ 地域、団地・団地商店街の活性化が望まれる
西府	<ul style="list-style-type: none">・ 学区域と福祉の担当エリアが異なり行政対応の課題がある・ 交通ルールが守られていない
武蔵台	<ul style="list-style-type: none">・ 文化センター圏域と学区域がばらばら
新町	<ul style="list-style-type: none">・ 周りの自治会・町会等との交流がない・ 子育て支援が必要
住吉	<ul style="list-style-type: none">・ 文化センターの活用（自由に使える、子どもの見守りをする等）・ 地域活動に参加しにくい人への対応（障害者、男性等）・ 社会福祉の充実、仕組み（民生委員一人では難しい）
是政	<ul style="list-style-type: none">・ 自治会の負担が大きい・ 民生委員の活動がよく分からない・ 自治会・町会等、シニアクラブ、民生委員の連携ができていない・ 文化センターが遠すぎる、エリアが広い
紅葉丘	<ul style="list-style-type: none">・ 病院が少ない・ 行政が発信する情報がわかりにくい（広報、HP等）・ 高齢者を優遇してほしい・ 文化講座等があるとよい
押立	<ul style="list-style-type: none">・ 調布市と入り組んでいるので、調布市の人とつながる必要もある・ 様々な福祉の問題の相談先がわからない・ 行政の行事が多い、行政が縦割りで困る
四谷	<ul style="list-style-type: none">・ 農業者の高齢化・後継者不足、農地の手入れがされていない・ 公共施設が高齢者向きに造られていない・ 再犯防止の取組、被害者支援も同時
片町	<ul style="list-style-type: none">・ 集合住宅と戸建の意識の差、住民の交流・ ゴミ屋敷・ 「無視」する人がいる（出てこない、居留守）

(2) 課題を解決するために地域できること

全ての地域から出た意見

- ・全ての地域から、課題を解決するために地域できることとして次のような意見が挙げられた。

	交流・居場所づくり	情報の提供及び共有の仕組みづくり	防災・災害時対応
中央	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけ、あいさつ ・横とのつながりをこつこつつくる ・居場所づくりを進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の支え合いの情報を伝える、シニアクラブのPRを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に情報をわかりやすく伝える、対策について啓発する ・災害弱者が避難しやすい場所をつくる
白糸台	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流の機会を増やす ・気軽に立ち寄れる場所をつくる(大人サロン) ・誰でも(子どもも)来ることができる場所づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の知らせ方の工夫(文化センターに掲示等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の災害対策(病院、スーパーとの連携) ・防災教育 ・防災の情報提供の深化 ・防災のルール・人づくり
西府	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・住民のつながりの強化、新住民と旧住民の交流の場づくり ・拠点づくりの強化(課題を話し合う拠点、自治会館、公園等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有化(自治会・町会等、民生委員、シニアクラブ、地域包括支援センター) 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に使える連絡網、災害時のための個人情報整理 ・災害時対応(防災無線改善、伝達手段、避難場所見直し)
武蔵台	<ul style="list-style-type: none"> ・今ある(子育て期)のつながりを継続する ・サロン活動、活動の広報、食事会 	<ul style="list-style-type: none"> ・回覧での情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策、地域による対応の細分化と情報の伝達
新町	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、声かけ、パトロール ・多様な居場所をつくる(食事、多世代、いつでもだれでも、空き家活用、公園活用) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域情報の発信 ・地域の情報共有ができる場所をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災、災害時の情報共有の工夫
住吉	<ul style="list-style-type: none"> ・近所での声かけ、あいさつ ・自由に使える拠点(文化センターで子どもと高齢者の交流等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の仲間に入れない方々のケア ・誰が住んでいるか、困りごとを抱えているかの情報共有 ・地域のニーズを拾う(アンケート、話聞く) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会・町会等、マンション内で災害時の対策チームをつくる
是政	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の交流の機会(盆踊り、料理教室、子ども食堂、清掃、カフェ) ・文化センターを使いやすくする(決まりを変える) 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に参加しやすくなるように、気軽にできることを広報 ・個人情報の取扱いを柔軟にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災(災害時の地域行動計画の策定、市との連携)
紅葉丘	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・地域の親善化、地域の人同士の顔の見える関係づくり、あいさつ、行事 ・文化センターを使いやすくする(飲み食い自由等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会エリア内での情報入手 ・地域情報を集約してスマホで見ることができるようにする(自治会・町会等、市報含めて) 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災の勉強会 ・災害時のための地域の連絡網

第2部 調査の結果

	交流・居場所づくり	情報の提供及び共有の仕組みづくり	防災・災害時対応
押立	<ul style="list-style-type: none"> 近所と仲良くする、交流、助け合いの気持ちを持つ 住民間の交流の場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 情報交換の場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 災害対策、避難方法の工夫・避難手段の確保、安否確認の工夫
四谷	<ul style="list-style-type: none"> 普段からコミュニケーションの深化 新旧住民の交流 交流の場・地域の居場所をつくる（交流・サロン、介護予防） 地域の人たちが地域の課題を解決するための拠点が必要 福祉施設との普段からの交流 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の身近な課題が集約される仕組みづくり 情報交換の場をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> 災害の知識を広げる 災害時の助け合い（情報伝達、ひとり暮らしの方の連絡、回覧等で情報共有、顔の見える関係づくり）
片町	<ul style="list-style-type: none"> 声かけと近所づきあい コミュニケーションの活性化、あいさつ 多世代が交流できる居場所づくり 公共施設を使いやすくする（文化センター） 	<ul style="list-style-type: none"> 回覧板の工夫 困ったこと、地域の情報を共有する（共有する場づくり、相談先と関係機関のリスト化、わかりやすい情報提供） 道路状況の把握 	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練 避難場所について大きな建物（企業等）に協力してもらう

複数の地域から出た意見

・複数の地域から、課題を解決するために地域できることとして次のような意見が挙げられた。

複数の地域から出た意見 1			
	見守り・生活支援	担い手の確保・育成	自治会・町会等の活性化 (団体同士の連携)
中央	<ul style="list-style-type: none"> 自治会など近くで支え合う仕組みを広げる、まずはあいさつから 見守りしやすい体制づくり 見守り活動支援員の増加 	-	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の活性化、支え合い活動 入りやすい自治会づくり マンションの管理組合と協力する 自治会と社会福祉団体との連携
白糸台	<ul style="list-style-type: none"> 地域で行う安全の強化(夜道の見守り、安全パトロール) 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の担い手の募集、探す いろいろな方法を使った担い手づくり(活動団体同士の連携、有償ボラの検討、新しい人が入りやすく) 	-
西府	<ul style="list-style-type: none"> 助け合いができる雰囲気づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 担い手育成 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会用相互連絡ツール 自治会への加入促進 各種団体の横の連絡網
武蔵台	<ul style="list-style-type: none"> 見守りネットワーク 困りごとに対するちょっとしたお手伝いからつながりをつくる 	-	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の活性化(役員・やり方の工夫)
新町	<ul style="list-style-type: none"> 回覧板の手渡し、安否確認 人材バンクを活用してちょっと支援を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 人材バンクをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会で相談し合う 自治会での助け合いを周知する 自治会運営の活性化(IT化、役務費支給等)
住吉	-	<ul style="list-style-type: none"> 若い人を巻き込む多様な活動 後継者、子ども向けの行事・イベントで親を巻き込む 後継者、リタイアした人に声をかける 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の団体同士の連携
是政	<ul style="list-style-type: none"> 子ども中心のゴミ拾いの部隊を作る 	-	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の活性化(お試し加入、楽しい行事、活動紹介チラシ、集合住宅への誘い) 自治会・町会等、シニアクラブ、民生委員の連携強化
紅葉丘	<ul style="list-style-type: none"> 買い物ツアー、買い物・代行 移動スーパー、巡回スーパー実現 病院への送迎 住環境、見回り隊、パトロール隊 	-	<ul style="list-style-type: none"> 地域の催し物で自治会・町会等に興味を持ってもらう
押立	<ul style="list-style-type: none"> 押し付けにならないお節介 気軽な相談の場づくり、困りごと相談会の常設化 相談機関から専門機関につなぐ 	-	<ul style="list-style-type: none"> 自治会や様々な団体によるあいさつ部隊 団体同士の連携、チーム化、まずは定例会議

第2部 調査の結果

	見守り・生活支援	担い手の確保・育成	自治会・町会等の活性化 (団体同士の連携)
四谷	-	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域組織の人材活用 ・ 新旧人材の入れ替わり、古い組織が変わることが大事 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流の場・地域居場所をつくる(自治会活動)
片町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 困りごとのちょっとしたお手伝いをする、できることをリスト化する ・ 安全な環境をつくる、防犯パトロール 	-	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会に入りやすくする ・ 自治会内にボランティア組織をつくる

複数の地域から出た意見 2				
	行事・イベントの実施等	高齢者支援等	子ども・子育て支援等	資源の有効活用(空き家活用)等
中央	-	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者が楽しく動けるようにする 	-	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家対策を充実させる ・ 公園を遊びやすくする、整える
白糸台	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民同士の交流イベント ・ 高齢男性向けのイベント 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者との交流、見守り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの見守り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域・行政が連携した空き家対策
西府	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で見守る(危険箇所、登下校時) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家活用 ・ ちゅうバスのルート等の見直し ・ 道路のバリアフリー化
武蔵台	-	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひとり暮らしについて見守り活動 ・ 各機関のつながり 	-	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家活用(高齢者食堂) ・ 交通の便をよくする(バス)
新町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域行事の活性化(運動、フリーマーケット、運動会) ・ 交流を進める(イベント、お祭り) 	-	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども食堂・学習支援、たまり場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家活用 ・ 移動手段の確保(バス、福祉施設への送迎バス)
住吉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども向けの行事・イベントに親を巻き込む 	-	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども食堂・フードバンク 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集会所(空き家活用、自治会館の使用)
是政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰でも参加できる地域包括支援センターの事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者支援の情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後の子どもの居場所づくり ・ 学校・PTAの連携強化 ・ いじめをなくす教育をする 	-
紅葉丘	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出入り自由のイベント ・ 住んでいる道をきれいにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の見守り、食事会、交流会 ・ 図書館に高齢者目線 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども食堂、子どもが喜ぶイベント ・ 児童館の充実 ・ 文化センターを使いやすくする(中高生に向けた夜間開放) 	-

	行事・イベントの実施等	高齢者支援等	子ども・子育て支援等	資源の有効活用(空き家活用)等
押立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事の活性化 ・ 子育て世代、若い世代向けのイベント、地域に無関心な層を魅了するイベント 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひとり暮らしの方へのアプローチ 	-	-
四谷	-	-	-	-
片町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多世代が交流できるイベント ・ 自治会・町会等行事に企業の参加を依頼する ・ 地域活動参加にメリットを付加、野菜や生活用品の配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひとり暮らし高齢者のための居場所づくり ・ 高齢者の見守り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で子どもの安全を見守る(夜間見守り、地域パトロール) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家を活用する

(3) 分野別のまとめ

- ・各地域から挙げられた地域の課題及び課題を解決するために地域でできることについて、高齢者福祉分野、障害者福祉分野、子ども・子育て支援分野に係る意見として次のとおり整理した。

高齢者福祉分野

- ・高齢者福祉分野に係る課題として次の意見が挙げられた。

	地域の課題	課題を解決するために地域でできること
中央	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の増加、ひとり暮らし、認知症の方など多くの課題 ・見守り活動が必要(子ども、高齢者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が楽しく動けるようにする ・見守りしやすい体制づくり ・見守り活動支援員の増加
白糸台	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化による心配ごとが多い(ひとり暮らしなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者との交流、見守り
西府	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が多い(見守りが課題、ひとり暮らしの方にに向けた支え合い) 	<ul style="list-style-type: none"> ・助け合いができる雰囲気づくり
武蔵台	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者夫婦のみ世帯、ひとり暮らしの方のつながり ・認知症の方の把握が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らしについて見守り活動 ・空き家活用(高齢者食堂) ・見守りネットワーク
新町	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員でもひとり暮らし高齢者の情報がない ・防災対策、災害時の高齢者支援 ・ひとり暮らし高齢者が増加、心配、見守り活動の不足、緊急時対応 ・介護の息抜きの場がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な居場所をつくる(食事、多世代が集まれる場所、いつでもだれでも、空き家の活用、公園の活用、地域の情報共有ができる場所) ・防災、災害時の情報共有の工夫
住吉	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らしの方へのかかわり方が課題 ・地域活動に参加しにくい人への対応(障害者、ひとり暮らしの男性) ・社会福祉の充実、仕組みが問題(民生委員一人では1,300人はケアできない) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に使える拠点(文化センターで子どもと高齢者の交流等) ・地域のニーズを拾う(アンケート、話聞く) ・誰が住んでいるか、困りごとを抱えているか情報共有が必要
是政	<ul style="list-style-type: none"> ・アパートに住んでいる人、高齢者の情報が少ない ・高齢者が増えている、高齢者、ひとり暮らしの方の見守り 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者支援の情報共有 ・個人情報の取扱いを柔軟にする
紅葉丘	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化で心配(ひとり暮らし) ・高齢者を優遇してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の見守り、食事会、交流会 ・図書館に高齢者目線 ・買い物ツアー、買い物支援・代行 ・移動スーパー、巡回スーパー実現 ・病院への送迎
押立	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし、高齢者だけの世帯の増加、移動の課題、認知症の方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らしの方へのアプローチ
四谷	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者になっても地域で暮らす(ひとり暮らし高齢者の増加、高齢者世帯の増加、認知症の方の増加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域居場所づくり(サロン、介護予防、自治会活動)
片町	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な高齢者問題(ひとり暮らし高齢者、店がないため買い物が不便) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし高齢者のための居場所づくり ・高齢者の見守り

障害者福祉分野

・障害者福祉分野に係る課題として次の意見が挙げられた。

	地域の課題	課題を解決するために地域できること
西府	・若年性認知症、精神疾患の方の居場所がない	・拠点づくりの強化(課題を話し合う拠点、自治会館、公園等)
住吉	・地域活動に参加しにくい人への対応(障害者、ひとり暮らしの男性)	・地域のニーズをひろう(アンケート、話聞く) ・誰が住んでいるか、困りごとを抱えているか情報共有が必要
四谷	・精神疾患を抱えた人の集う場所がない	・交流の場をつくる(交流・サロン)

子ども・子育て支援分野

・子ども・子育て支援分野に係る課題として次の意見が挙げられた。

	地域の課題	課題を解決するために地域できること
中央	・見守り活動が必要(子ども、高齢者) ・子どもの遊び場(公園)が少ない ・ひとり親家庭の増加	・見守りしやすい体制づくり ・見守り活動支援員の増加 ・居場所づくりを進める ・公園を遊びやすくする、整える
白糸台	・子どもの居場所が少ない、安全確認が重要 ・ひとり親家庭の問題	・子どもの見守り ・誰でも(子どもも)来ることができる場所づくり
西府	・子どもの登下校の見守りがない	・地域で見守る(危険箇所、登下校時)
武蔵台	・子どもが少ない、遊び場が少ない	-
新町	・子どもの安全対策 ・子育て支援が必要(双子・三つ子)	・声かけ、パトロール
住吉	・文化センターの活用(自由に使えるようにする、子どもの見守りをする等)	・自由に使える拠点(文化センターで子どもと高齢者の交流等) ・子ども食堂・フードバンク
是政	-	・放課後の子どもの居場所づくり ・ゴミ拾いの子ども中心の部隊を作るいじめをなくす教育をする ・学校・PTAの連携強化
紅葉丘	・地域のつながりが希薄(新しい人と昔からいる人、子ども会参加者減少)	・子ども食堂、子どもが喜ぶイベント ・文化センターを使いやすくする(中高生に向けた夜間開放、飲み食い自由) ・児童館の充実
四谷	・子どもの見守りが重要、子育て支援が必要	-
片町	・子どもの見守り、安全 ・ひとり親世帯、母子家庭	・地域で子どもの安全を見守る(夜間見守り、地域パトロール) ・安全な環境をつくる、防犯パトロール

複数の分野に係る課題として、災害時の要援護者支援、ひきこもり状態にある方への支援、8050問題等の意見が多く挙げられた。

2 参加者アンケートの結果

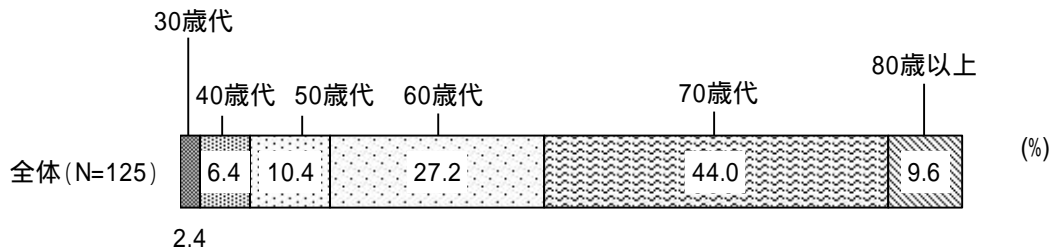
(1) 回収状況

- ・回収数 125人分

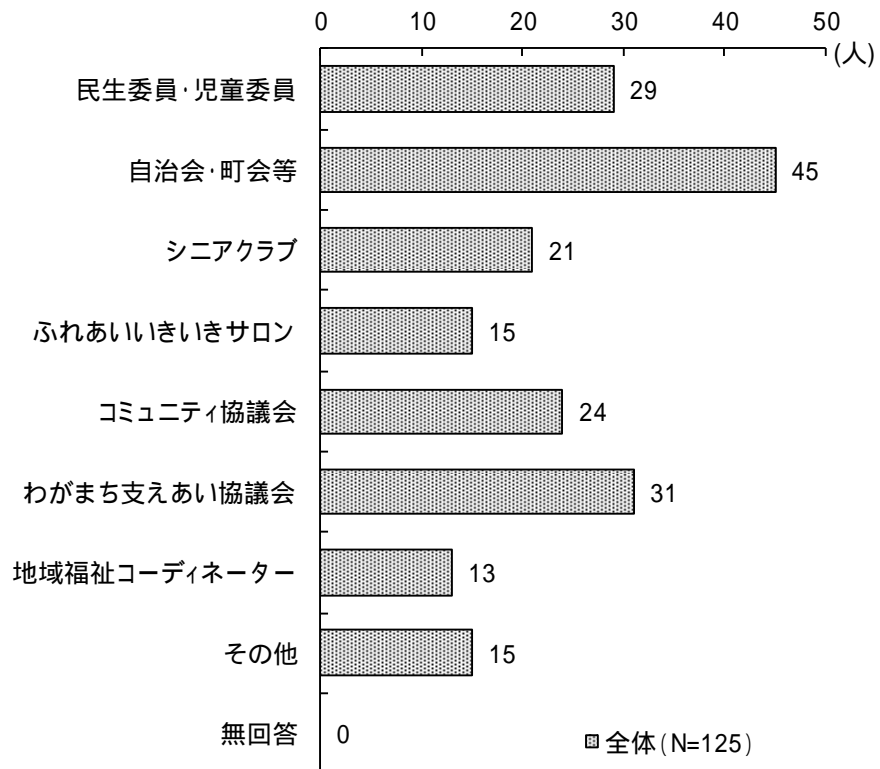
(2) 基本属性

- ・参加者の年齢は、「70歳代」が44.0%で最も多く、「60歳代」が27.2%と続いている。
- ・地域活動(所属団体)は、「自治会・町会等(45人)」が最も多く、「わがまち支えあい協議会(31人)」、「民生委員・児童委員(29人)」と続いている。

年齢



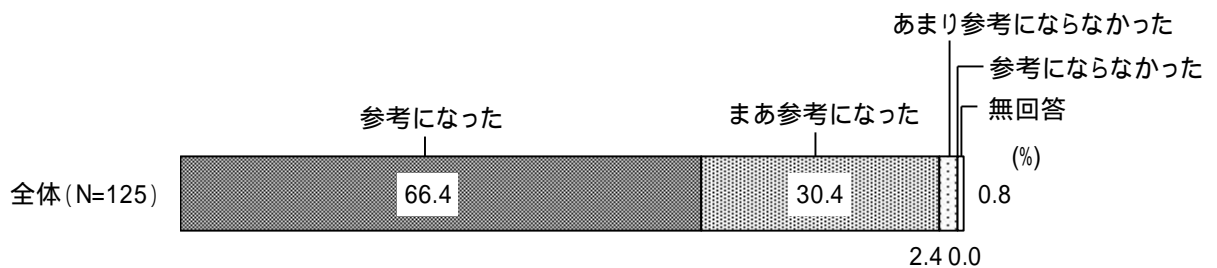
地域活動(所属団体)：複数回答



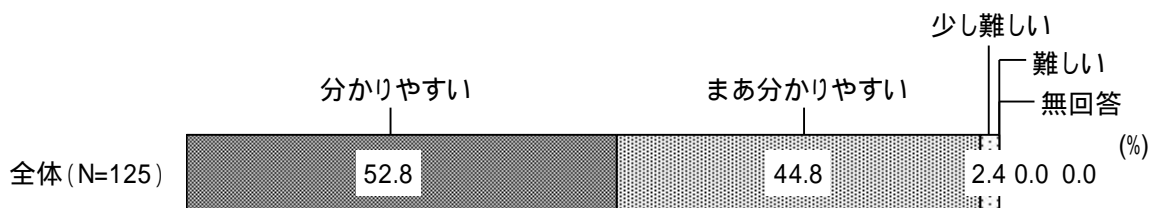
(3) アンケート結果概要

- ・グループディスカッションに参加して参考になった程度は、「参考になった」が66.4%、「まあ参考になった」が30.4%であり、合計すると96.8%が参考になったと回答している。
- ・意見を書いて紙に貼りながら進める話し合いの方法の分かりやすさは、「分かりやすい」が52.8%、「まあ分かりやすい」が44.8%であり、合計すると97.6%が分かりやすいと回答している。
- ・今後のグループディスカッションの開催の必要性は、「必要である」が80.8%、「わからない」が15.2%となっている。

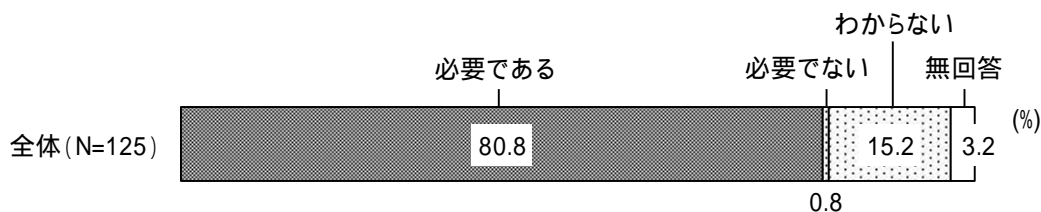
グループディスカッションに参加して参考になった程度



意見を書いて紙に貼りながら進める話し合いの方法の分かりやすさ



今後のグループディスカッションの開催の必要性



(4) 主な感想・意見（自由記述）

話し合いの内容について 23件

- ・地域の担い手がどこの地域でも不足している 活動を持続するのが難しい 解決するにはどうすればよいか改めて考えさせられた。地域で助け合いが永遠に続いてくれますように祈ります。
- ・地域の課題が明確になり勉強になりました。要望が理想ではなく実現されるとよいのですが、私自身、もっと地域に根ざしてできることがあるのではとがんばらなくてはと思いました。
- ・他の福祉団体でも同じようなことを行っているので連携も必要と思う。
- ・地域での悩みごとは、様々であることが分かった。悩みごとは、50パーセントは共通していた。
- ・地域によって課題が異なることがわかりました。地域の方の生の声が勉強になりました。
- ・地域性が出ていて興味深かった。
- ・他地域の特性を知ることができよかった。
- ・地域差があることに気づいたが、一人暮らし高齢者の課題は多かった。
- ・課題を共有できてとてもよかった。高齢者の独食が心配でしたので空き家の利活用をぜひ実施してほしい。

グループディスカッションで出た意見の活用について 16件

- ・グループディスカッションをしているので、なんとかこの意見をいかしてほしいと思います。
- ・今日のディスカッションで出てきた具体的な解決策をぜひ、少しずつでも実施に移していただきたい。
- ・話し合いで出た意見を具体化、実現をどうしていくかを煮つめる時間（会）も必要かと思う。実際、市の方へ意見が伝わって、とりあげてもらえるのかも知りたい。市行政側の人をもっと参加して意見を聞いてほしい。
- ・今日出た意見を十分に反映した福祉計画を作成していただきたいと思います。新しい課題にも勇気を持って取り組んでいただきたいと思います。
- ・このディスカッションがこのままで終わらず、市政に必ず活かされるということなら、また協力したい。
- ・大変参考になりましたが、この結果をまとめていただいて配布していただくと有効に活用することができる。
- ・とても有意義にいろんな意見を聴くことができ、とても勉強になりました。今後の地域活動に役立たいと思いました。

グループディスカッションの方法について 16件

- ・1つのテーマを決めて様々な立場の人が話しあえる場は有意義な場だと思います。
- ・広い枠、様々な団体、いろいろな立場の方々が直接話せる場は大事だと思います。もっと若い世代の方が来られる設定だといいかと思います。
- ・問題点の抽出で焦点が明確化できるため、よい方法だと思います。
- ・長々と意見交換するより有効な話ができると思います。自分の知らないことも書いた人に質問できま

すね。否定のない意見交換は意見が出やすくよかったと思います。

- ・方法はよいが、もっと具体的な提案があると意見が出しやすい。漠然と「困っていること」では広すぎて、何をどう言えばいいのかわからない。「関係」といういくつかのテーマがほしかった。
- ・内容を深められるように、問題ごとに（テーマごとに）各メンバーの意見を出すようにした方がよいと思う。

参加しての感想 15件

- ・地域活動されている方とのつながりが増えてよかったです。
- ・大変勉強になり、言いたいことも言え、よかったです。
- ・大変有意義でした。何よりも皆さんが地域とのかかわりに関心が高いとホッとしました。
- ・いろいろな人と話し合えてよかった。
- ・活動領域が異なる人たちの意見を聞くことができよかった。
- ・いろいろと自分たちが常日常、思っていたことを書くことができ（知らせること）有意義な会議ができてよかった。

今後のグループディスカッションについて 9件

- ・各種の切実な課題が話しあわれました。今後も今回のような話し合いは必要であるし、将来につながるものと思われまます。
- ・グループディスカッションの時間が短い。次回は今回の話し合いを踏まえての話し合いがよいかと思ひます。
- ・たいへん有意義でありました。今後も続けていただきたい。
- ・いろんな立場の方の話しが聞けてよかった。民生委員もたくさんではないがいますので、ぜひまた、こういう機会を開いてほしい。今日のこの結果をプリントで配布してほしい。民生委員でも勉強になります。

第5章 調査結果からみた課題

- ・福祉計画策定のために実施した各インタビュー及びグループディスカッションの実施結果を踏まえた課題と今後の取組の方向性は、次のとおりである。

課題1 協働による福祉の取組の促進

- ・1点目の課題は、協働による福祉の取組の促進である。
- ・地域福祉の担い手グループインタビューでは、府中市においても介護・医療のニーズが高まっており、福祉人材の確保、介護保険の費用負担等の課題や、ひとり暮らしや複数の課題を抱える世帯、生活困窮者など、支援につながりにくい方の課題等が挙げられた。
- ・安心して暮らせる地域をつくるためには、サービスの提供はもとより地域での見守りや協働での支えあいが必要である。また、人材が必要な福祉分野において協働による取組は、さらに重要になっている。

(1) 担い手の確保・育成

- ・市民の具体的な活動を引き出していくために、地域において個人が声かけをしたり、困りごとのちょっとした手伝いなどがしやすい雰囲気づくり、気軽に集まれる居場所づくりを積極的に行っていくことが必要である。
- ・専門職の人材確保、育成、定着支援に対して、国や都の取組とも連携して処遇改善やキャリアアップに関する具体的方策を講ずることや、福祉に係る仕事の魅力を伝える情報発信を行うことが必要である。
- ・小規模事業所の職員の研修支援、施設のマネジメント及び経営に係る支援等の検討が必要である。

(2) 医療・介護・生活支援の連携の仕組みづくり

- ・高齢化が進展し、高齢者のひとり暮らし世帯が増えるなかで、今後、在宅で暮らす高齢者の介護や医療のニーズがさらに高まると考えられる。そのため、医療・介護連携とあわせた生活支援の仕組みはますます重要になる。
- ・協働による取組として、今後はさらに生活支援の視点からも、地域のさまざまな資源と連携していくことが必要である。
- ・高齢者・障害者福祉分野の協働事業として、医療ニーズのある在宅療養者、重度障害者、医療的ケアが必要な子どもたちが地域で暮らし続けるための「共生型サービス」などの実施が考えられる。
- ・生活支援機関インタビューでは、市と企業との協定の締結、仕事説明会の実施など市との連携の事例が挙げられた。今後は、認知症サポーター養成講座、福祉分野に係る研修事業、フードバンク、災害時の避難所への物資供給、店舗での見守り支援など、市と企業との更なる連携による取組を検討し、実施する必要がある。

課題2 地域における情報共有と課題解決のための仕組みづくり

- ・2点目の課題は、地域における情報共有と課題解決のための仕組みづくりである。
- ・文化センター圏域別グループディスカッションでは、各地域固有の課題、複数地域で共通する課題、また課題解決のための取組について様々な意見が挙げられた。また、参加者からは、地域のニーズや課題が理解できた、他の活動者となつなぐることができた、話し合った具体策をいかしていきたい、話し合いを続けたいとの意見があり、文化センター圏域が市民にとって身近な日常生活の圏域であり、今後の福祉エリアとして有用であることが確認できた。また、課題を解決するためには、本音で話し合う場づくりや話し合いの継続が重要であることが示された。

(1) 地域での情報共有や相談の仕組みづくり

- ・文化センター圏域別グループディスカッションでは、地域の課題はまちの成り立ちで異なり、買い物や交通機関など地域特有の課題が挙げられた。また、支援が必要な方の声が届きにくい、交流の場が少ないなど、複数の地域で共通して地域のコミュニケーションの課題が挙げられた。
- ・地域のコミュニケーションの課題を解決するために地域でできることとして、「情報の提供及び共有の仕組みづくり」という意見が挙げられた。今後は、情報共有の仕組みとして、掲示版の工夫や回覧版の活用、情報交換の場づくり、相談先と関係機関のリスト化などを行い、地域でさまざまな情報を共有する機会、気軽な相談や交流できる場を設けるなど、課題解決の土壌をつくる必要がある。

(2) 地域で支えあう仲間・場づくり

- ・地域福祉の担い手グループインタビューでは、子育てや介護などをとおして、地域で互いに知り合い、話し合えるようになると、問題意識が広がり、仲間が増え、様々な活動に発展し、解決策も生み出される。また、最初は仲間がいなくても気軽に訪れたり、相談したりすることで、仲間づくりや助け合いができるという意見が挙げられた。また、当初は個人で活動に参加していたが、次第に行政や地域の後押しで、教室やカフェを主催したり仲間づくりをしたりするようになったという意見が挙げられた。一方、現在は、活動者と行政との接点、活動者同士が相互に知り合う機会が少ないという意見が挙げられた。
- ・活動者同士の交流及び意見交換のための接点や場をつくること、また、同じ悩みを抱える人同士の自助グループ、趣味活動サークルの活動などを支援することが重要である。また、グループに入れない人へのケアやサポートを行い、地域でのコミュニケーションを支援していくことも必要である。

(3) 多様な市民活動の充実

- ・文化センター圏域別グループディスカッションでは、すべての地域において、自治会・町会等への加入率の低下、地域活動の担い手不足、高齢化など活動の活性化が課題として挙げられた。課題の解決のためには、祭りやレクリエーション等の様々な取組や、自治会・町会等と他の団体とが連携してい

くことが重要であるといった意見が挙げられた。

- ・市民活動の充実のためには、自治会・町会等の活動、地域の祭り、若い世代のレクリエーション及び環境保護などのテーマ型の活動が様々に地域で展開されることで、人のつながりの輪が広がり、それらが新たな支えあいにつながると考えられる。今後の福祉の推進には、そうした多様な市民活動の充実による、地域力の強化が必要である。

課題3 包括的な相談及び支援体制の整備

- ・3点目の課題は、多様な主体が参画し、連携するネットワークづくりである。
- ・市民が福祉に関心を持ち、身近な地域で活動し、様々な活動者と一緒に、協働の活動へ進んでいくことが重要である。

(1) 多機関が連携した相談・支援の仕組みづくり

- ・相談支援機関グループインタビューでは、複合的な課題を抱える事例が増えており、そうした事例に対しては多機関が連携して取り組む必要性があり、包括的に連携するネットワークづくりが重要であるといった意見が挙げられた。またそのためには、全庁的な連携、民間との連携及び福祉分野と福祉以外の分野との連携が必要であるという意見が挙げられた。
- ・地域包括支援センターがより多様な課題に対応していくためには、マネジメントを行う基幹型地域包括支援センター機能の検討も必要であるという意見が挙げられた。
- ・地域福祉コーディネーターによる困りごと相談との連携、民生委員等との情報共有の仕方について検討が必要である。

(2) 安全で安心して暮らせるまちづくり

- ・文化センター圏域別グループディスカッションでは、地域の課題として、防災対策、災害時要援護者への対応、空き家の増加及び道路の課題などが挙げられた。これらの課題に対しては、福祉と福祉以外の分野との連携が必要である。また、自由に集える拠点及び多様な居場所づくりに関する課題が挙げられた。
- ・高齢者に対する支援として、見守り、食事会、交流会、買い物支援・代行、病院への送迎などのアイデアや、そのためのアンケートやヒアリングの実施等について提案があった。多様な地域資源との連携がさらに必要である。